

認知症サポーター養成講座

社北社会福祉協議会の方と愛寿苑の方、ほやねっと社の方をお招きして、認知症サポーターについて4年生が学びました。日本全国で認知症の人が増えているため、みんなで支え合う社会づくりが求められています。小学生にもサポーターとして、温かい目で認知症の人を見守る応援者になってほしいと説明されました。



愛寿苑の方が、年を取ると人の身体にどんな変化が起こるか尋ねられ、子どもたちから「膝が悪くなる」「視力が悪くなる」との答えがかえりました。



そこで、お年寄りの身体の状態を疑似体験しました。両手に軍手をはめて、教科書を1ページずつめくってみます。ページをつまもうとしても、数ページをつまんでしまい、なかなかめくれません。多くの子から「むずかしいよ」の声が上がってきました。愛寿苑の方から、年を取ると手の感覚が鈍くなり財布から小銭を出すのも大変になると聞いて、一層お年寄りの苦勞が実感できました。



高齢の方と普段接することが少ないと、どのように接してよいか分からない子どもたちもいます。お年寄りに接するときには、「相手の気持ちを考える」「自分が出来るお手伝いをする」「出来ること、すぐれたことに目を向け、尊敬の気持ちを持つ」を心掛けるとよいことを教えてもらいました。特に、認知症にかかった人は、失敗することが多くなり、周りから怒られるとますます元気がなくなり、症状が悪くなってしまいます。そのため、周りの人の支えと温かい気持ちが必要だと説明されました。クラスの中で仲間と気持ちよく生活するために必要な相手への温かい気持ちが、認知症にかかった人にも必要だと気づかされました。



最後に社会福祉協議会の方から認定証をいただき、認知症サポーターの一員として認めていただきました。子どもたちには、今日の活動で学んだことをこれからの暮らしの中で活かしてもらいたいです。